

事例①

業務フローの変更がないため、
導入は驚くほどスムーズに。
決裁申請時間も半分以下に

学校法人 新渡戸文化学園

導入の成果

在宅勤務が増え申請業務のデジタル化は待ったなしに。
業務フローの変更が必要ない Shachihata Cloud によって
決裁申請時間も半分以下に大幅短縮

新渡戸文化学園は、教育者・思想家の新渡戸稲造が初代校長だった女子経済専門学校を起源とし、子ども園（幼稚園）から小学校、中学校、高等学校、短期大学までを運営しています。

2020年8月には、AI型タブレット教材やデジタル教材の開発により、経済産業省の「未来の教室」モデル校に認定され、また今年2021年春には小中高の児童・生徒の「1人1台端末化」を実現するなど、教育におけるデジタル化を積極的に進めています。

教職員による起案書をはじめとする各種申請業務のデジタル化も、DXや脱ハンコの流れの中で前向きに取り組むという方針のもと、機運が高まっていました



学校法人 新渡戸文化学園

<https://nitobebunka.ac.jp/>

検討課題だった申請業務のデジタル化が、 新型コロナウイルス感染症拡大で 一気に現実味を帯びてきた

もともと新渡戸文化学園法人事務局では、起案書をはじめとする各種申請業務を紙ベースからデジタル対応へと出来るところから着手することを検討していました。担当者に訊ねると「申請書等の書類保管場所もセキュリティ面も併せて大きな課題となっていたため、デジタル化は避けて通れない道でした」とのこと。

そんな課題に解決の糸口が見えたきっかけは、新型コロナウイルス感染症拡大による在宅勤務の増加でした。これにより、申請業務のデジタル化は一気に前進する状況となりました。承認者が出勤していない場合でも申請処理が出来ることで、機動性が一気に高まることになったからです。

「業務フローの変更がないこと」 が決め手となり導入を決定

申請業務のデジタル化にあたっては、システム開発会社3社に話を聞いたそうです。その結果、3社目に話を聞いたShachihata Cloudの導入を決めました。

1社目のシステムでは、日頃から使っている申請書類のテンプレートを、すべてその会社が運用するサイト上に新たに作成する必要がありました。しかも、テンプレート作成はその会社に委託しなければなりません。テンプレートは現状でも複数あり、これから新たなものが必要となる可能性もあるので、作成のたびに業務を委託するのでは時間的にも費用的にも大きなロスが発生します。そのため、1社目は保留としました。

2社目のシステムは、使っている申請書類のフォーマットがそのままでは使用できず、その会社が用意しているフォーマットに落とし込まなければなりません。そのため導入は最初から無理でした。

3社目のShachihata Cloudを導入する決め手となったのは、現状の業務フローをまったく変更しなくて良いことでした。

担当者は次のように話してくれました。「Shachihata Cloudでは、私たち使っているWord形式などの申請書類を、ただドラッグ・アンド・ドロップでコピー&ペーストするだけで、クラウド上に簡単に登録できます。登録したら、あとはクリックにより承認フローを選択すれば、申請業務を簡単に開始できます。これまでの業務フローを変える必要がまったくないため、教職員に対する使用法の周知も容易です。そのため、部内の全員が『シャチハタでやってみよう』という結論になりました」。

導入は驚くほどスムーズ

導入にあたり、まず事務局職員約 20 名に対し、起案書に限定して、Shachihata Cloud を試験的に導入してみることにしました。そうしたところ、導入は驚くほどスムーズに進みました。

2020 年 4 月 1 日に Shachihata Cloud を導入し、当初の見込みでは職員が使用方法に慣れるのに、最短でも 4 月一杯はかかるだろうと予想していたところ、実際に導入してみると 4 月の中旬頃には、職員の全員が何の問題もなく使いこなすようになっていました。職員全員に対する説明を最初に 30 分程度ただけで、速い人だと、あとは自分でログインし、『ああ、なるほど』などと言いながら使えるようになりました。使えるまでに最も時間がかかった人でも、事務局からの個別の説明は 20 ～ 30 分程度。また、年配の方も予想以上に短期間で慣れたそうです。

Shachihata Cloud は、Word や Excel 形式の申請書類をそのまま利用できるため、新渡戸文化学園でも「業務フローが変更になった」という感覚がなく、スムーズに移行できたそうです。「導入が予想外にスムーズだったため、隙間時間で新たなプロジェクトの立ち上げも進み、大変助かっています」とのことです。



決裁申請時間は半分以上に大幅短縮

Shachihata Cloud を導入してみると、決裁申請に必要な時間は半以下になりました。担当者は、「これまで 1 週間程度はかかっていた決裁申請が、3 日あれば終わる、という感じになっています。所要時間は半以下になっていますね。速い場合は 1 日で、決裁が終わったこともありました」といいます。

決裁申請時間が短縮した要因は、まず申請書類を承認者の机まで、持ち運ぶ必要がなくなったことが挙げられます。それとともに、承認の進捗状況が可視化できることも大きいようです。

これまでは、決裁がなかなか完了しない場合などには、承認者 1 人ひとりの机までおこなって「印鑑を押していただけました？」と確認しなければなりませんでした。ところが、Shachihata Cloud では、承認フローに入っている全員が、承認の進捗状況をクラウド上で確認できます。先日も承認が止まっていたので、承認者にメールで「お願いします」と依頼したら、「ああ、ごめん、忘れていた」と、すぐに承認してもらえたそうです。

また、印鑑をクリックだけで押せることも、業務効率を大きく改善しています。職位が上の人だと、提出された申請書類が多いときは机に山積み状態という状況で、印

鑑を1日に何度となく押す必要がありますが、Shachihata Cloudならクリックだけで手軽にデジタル印鑑を押せるため、印鑑を押すという力仕事が大幅に減りました。その分だけ申請内容を深く読み込んで決裁するという本来の稟議効果が上がりましたのです。

今後の
展望



申請書類の種類や使用者を広げていきたい

新渡戸文化学園 法人事務局では、現在は、事務局職員の起案書に限定してShachihata Cloudを導入しています。今後は、休暇申請などその他の申請書類や、事務局職員以外の教職員に対しても導入を広げていく計画をしているそうです。

